社説

警察の改良

今回の内閣變動に警視總監の地位にも更迭を見たり我輩は此機會に際し聊か希望を述べんに警察は社會の安寧を維持し人民の名譽生命財産を保護するものにして取締の範圍甚だ廣く關係も亦隨て多しと雖も任務の大體は社會全般を目的にして其間に苟も輕重の別ある可らず從來警視廳の處置を見るに敢て務を怠るに非ず否な着々進歩の實は疑ふ可らずと雖も又一方より觀察するときは彼の政治上の探偵即ち高等警察に力を費すみと甚だ大にして比較上權衡を得ざるの嫌なきに非ず高等警察固より輕忽に付す可らずと雖も特に之に偏するの理由あるを見ず社會人事の進歩に從て普通警察の事務頻繁を加ふるは自然の勢にして人事些末の邊に至るまでも觀察の眼に漏るゝみとなからしめ直に人民の煩累を爲さずして自から其利害を保護す是れぞ即ち警察の本色にして民生の由て以て安き所以なり人智の進歩、社會の開明は一方に害惡の發生を促がしてます〳〵裏面の醜態を增長せしめ商工界の繁昌に隨て詐欺師盜賊の輩は其術を發明工風して底止する所を知らず宗教道德の議論漸く盛にして密賣婬の流行は以て衛生風俗を傷け或は田舍者が始めて出京して東西の方角に迷ふを奇貨とし巧に籠絡して金錢を掠捕る狡猾奴あり往來に何か事あれば忽ち群衆の雜沓を來して通行人の妨害を爲し又老幼の輩が馬車人力車に衝突して不慮の災難に遇ふが如き毎度の出來事にして珍しからず事小なるに似たれども其小惡事を告計したるものみそ即ち全般の大惡害なれ左れば警察の裏面目は所謂國家の大事に[illegible]するよりも寧ろ日常の細事件に就て細々注意するみそ願はしき所なれども今の實際は則ち然るを得ず其細事を等閑に附せずと云へば字義の如く民間日常の事にまで干渉を試み唯徒に人を煩はすのみにして眞實嚴しき保護の趣意は却て之を忘るゝものあるが如し例へば田舍地方にて村翁が祭禮の濁酒に酩酊して路傍に臥す往來の巡査がみれを見て衛生の注意を與へて之を起さんとするは如何にも親切なるに似たれども醉漢其命に從はずして何か抗言するや官吏を侮辱したりとて直に警察署に拘引し一夜留置所に留置きたる爲め却て寒胃に罹りたるの奇談さへなきに非ず此等は聊か極端の例なれども兎に角に人民に接するの宜しきを得ずして爲めに犯罪を多くするが如き事實は實際に疑ふ可らず本來警察は社會共同の設置として一般の保護を目的とするものなれば漫に尊大に持するの必要なきのみか成る可く人民に接して成る可く丁寧親切を主とし啻に詐欺盜賊の類の如き社會の害惡に備ふるのみならず個人尋常の事或は交通往來の上にも細々注意して例へば老人小供が路に迷ひ泥濘に困却するが如き場合には之を扶けて親切に世話するなども自から[illegible]にす可らず其他萬事萬端に心を付けて眞實保護の實を擧ぐるに於ては警察の勢いよ〳〵明にして始めて人民をして信憑せしむるに足る可し官尊民卑の宿[illegible]て[illegible]し官に厚ふして民に薄ふするが如きは斷じて[illegible]ものに非ずんば此等を始めとして警察の[illegible]すべきもの事務の改良擴張すべきもの甚だ少からざる可し我輩は今日を以て尤も改良に適當の時機なりと認むるものなり

○近衛師團演習陪觀記（五）

十月十九日忍町に於て

第二旅團附 特派員 中村千太郎

十七日南軍枝隊長が北軍枝隊の占領せし宮鼻の陣地を攻擊する爲め左右翼を張て正面街道より前進し左翼は上吉田村方向に右翼は鳩田村の東端に其本隊は本街道を進み漸く相近くに至り其先兵の相衝突して銃聲東西に起り南北兩軍亦砲火を開き激烈なる戰鬪將に起らんとするに至りしまでは既に前回に報じたるが北軍の占領せし砲兵陣地は頗る優勢にして前面及び左右の開ける平地を一望の下に瞰下して自由に砲擊し得るのみならず其步兵の配列せし陣地も亦頗る優勢なりしかば南軍枝隊長は頻に苦慮し或は右翼に勢力を增加して敵の左翼の勢力如何を試み或は左翼に向て一齊射擊を加へ敵の勢力如何を知らんと勉め良暫くの間は右に左に將た正面本道上に其本隊の攻擊點を撰定するに苦心したるも遂に本街道を進みて正面より攻擊するの困難なるを知り敵の右翼陣地即ち街道の西方に於て防禦の兵力少きを發見し本隊を左翼に囘轉せしめ八王子街道より更に西方田木村方向に前進し北軍の防禦陣地たる道路の西方手塚の松林に向て猛烈なる攻擊を加へしめ又八王子街道なる上吉田村の砲兵陣地よりも激しく發砲せしめ而して正面なる本街道よりは一大隊を以て猛烈なる射擊を加へ北軍の正面に配列したる兵を牽制せり是に於て北軍の砲兵は四門の砲身を悉く西方に回轉し激しく砲擊を加へたれば南軍も亦頻に應砲せり而して南軍は益々勢力を敵の右翼に加へて激しく攻擊したれば北軍も宮鼻の後方木立の內に置きたる豫備隊六個中隊を右翼陣地即ち手塚の松林に進めて之に應戰し此に激烈なる戰鬪起り砲聲銃聲相和して天地轟々たりしが暫くして南軍の二個中隊は狹隘なる道路を進んで北軍の右翼陣地たる松林に突進し相去る僅に四五十メートルに接近したるを以て此に演習を中止せしめ次で小川旅團長は南北兩軍の將校を手塚の松林中に召集し講評をなせり此講評の後北軍枝隊長は師團長より一の情報を得て退却するに決し宮鼻砲兵陣地の正面に配列したる約一個大隊を後衛とし上野本村を經て漸次松山方向に退却したるに南軍は之を追擊し高坂附近に至り再び開戰したるも固より本隊をして退却の時間を得せしむるがために防戰したるに過ぎざれば暫時にして銃聲止たり夫れより數ケ所に於て小戰ありし後松山町の入口に至て防戰せり街道との要地には防塞を設け橋梁二ケ所を破壞して防戰に努めたるも其の目的を達するに至らず已むなく松山町を燒拂ふて退却するに決心し市街に石油を灌ぎて燒拂ひ（實は固より假想）北軍は此內を退却したるに南軍は激しく追擊をなしたり斯くして北軍は且戰ひ且走り松山町の北端に至りし時北軍は忽ち南軍の爲めに挾擊を受くるに至りたり其次第は北軍の松山町を燒拂ひて退却し南軍之を追擊するや町の中途に於て南軍の一部隊は本道の別路を取て急進し北軍の退路を遮り來るべき道路の傍に出でたれば北軍は此に殆んど挾擊を受るの姿となりたるなり此に於て北軍は意を決して逆襲をなすに決心し激烈なる銃戰の後二個中隊を以て逆襲をなすに至り戰鬪中止の命下れり時に日既に傾して夜色漸く黑からんとするの時にてありたり茲に於て小川旅團長は兩軍の將校を會して講評す斯くして後、南軍は松山町の北端に於て一低地を隔てゝ相對峙したるまゝ露營を張れり

○近衛師團演習從覽記（八）

十月十七日夜於岩槻町

第一旅團附 特派員 砦水生

●●●實戰に優る幾等

演習者の困苦の一通りならざるは勿論縱覽するものに勇壯快活なる感動を興ふる點に於ても演習の實戰に優る幾等なるを知らず唯悲慘凄涼、決死憤慨等の光景ありや否やの點に於て實戰と其等級を異にするあるのみ予は昨十六日の朝始めて岩槻の南端に於て攻守共に猛烈なる演習を觀て壯觀實戰に讓らざるものありと絕叫したり然れども唯之を實戰と比較するの概念のみありて未だ演習に一種の趣味あるみとを知らざりき碁を圍むもの其始に於ては冷々淡々なりと雖も一勝一敗漸く其番數を重ぬるに及んでは耳熱し興熱して觀の喪に走らざるものあるに至る相撲を視るもの其始に於ては他の勝敗我に關せず唯他の一起一倒を目擊するのみなれども其左を推し右四つとなるの四十八手を解するに及んでは首を動かし拳を握り他の一起一倒は直ちに我の勝敗となり興味津々として湧くを覺ゆべし區々たる遊戲尙且然り況んや國家の干城を集め赳々たる武夫を分ちて形ながらも生死の機に出入する勝敗を爭ふに於てをや演習を觀ざるものは暫らく假りに勝敗を定むるは何となく張合なかる可しと是れ其趣味を解せざるものゝ言のみ予は十五日の正午過ぎより南北兩軍の戰線中に在り斥候の後に尾しては騎兵と步兵との衝突を視、傳騎と共に走りては敵情搜索の報告を聞き十六日の午前に至りて更に接戰の間に立て快哉を呼びたれども未だ趣味あるを知らざりき同日午後北軍の退却の運動を視る倘は同樣なり

今十七日午前攻守の激戰を視る倘は同樣なり是に於て其午後南軍の退却運動も亦同樣ならんみとを豫想して深くも追跡せず路傍の割烹店に投じて飯を喫し銃聲の轟々たるを耳にしながら前日來の狂奔に疲れて一睡直ちに黃昏に達したまゝ慶應義塾の塾友兩三名來りて共に戰地に進まんみとを勸む之を留むれども聽かず予も亦萬一月明に乘じて夜襲等の激戰あるべきやを氣遣ひ乃ち共に戰線中に至り統監の許に至りて一般に關する模樣を伺ひ演習中には夜襲を爲さゞる筈なりと聞き安心して塾友と共に歸路に就き森林[illegible]暗くして人影微かに辨じ得るの頃塾友の大宮方面に向ふに別れて予獨り岩槻に向ふ途上爆々銃聲絕えず是れぞ斥候若くは前哨兵の衝ならんと思ひ心にも留めずして單身森林中を步行し來れる時端なく南北兩軍相對峙する間に入りて始めて演習の演習にあらずして實戰に優るの困苦を察し且つ兵士等が其任務を全ふするが爲めに如何に死力を盡せるかを知り兩軍の士氣今や熱中の極に達するを知り明日の接戰如何に猛烈なるべきを想像して演習に無限の趣味あるみとを發見したり他なし前哨の衝突を目擊したればなり

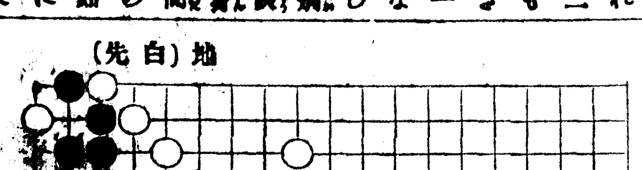
●南北兩軍は一
ます〳〵加は
り其模樣は各舉
技量を逞うせ
とする其間に
に愈戰て
の敗に歸する
色なく休戰の
嘗を背囊より
く〳〵に仕舞ひ
兵は岩槻町の
抗戰する其間
退却せり是に
今は支ふる能
せしに騎兵の
に至るもの數
南軍の一部は
北軍は二個中
る時南軍は北
右翼を衝かん
し來るを認め
とす此時休戰
して兩軍の抗
と判定し其
哨相接近して
●前哨

是より昨夜
は倘後報に

○力士道中
吹かせつゝ
青森の山を
頂歸京したる
戸平、谷ノ音、
人の力士達が

○

地（白先）



注意